

きらぼし銀行「お客さま本位の業務運営」 2017年度の取組状況

1. お客さまとの対話を重んじ、お客さまの最大の満足を共に目指す指標

・2018年3月末時点における、きらぼし銀行の投資信託・保険のラインナップ（旧東京都民銀行と旧八千代銀行の取扱商品を合算した商品数）は次のとおりです。

【投資信託】

取扱ファンド数	145	商品数比率
国内株式	17	12%
国内債券	3	2%
海外株式	28	19%
グローバル	9	6%
先進国	9	6%
新興国	10	7%
海外債券	48	33%
グローバル	13	9%
先進国	24	17%
新興国	11	8%
REIT	16	11%
バランス型	25	17%
その他資産	8	6%

【保険】

一時払い保険取扱商品数	15	商品数比率
円建て	4	27%
定額個人年金	0	0%
変額個人年金	0	0%
終身保険	4	27%
外貨建て	11	73%
定額個人年金	2	13%
変額個人年金	0	0%
終身保険	9	60%

平準払い保険取扱商品数	17	商品数比率
個人年金保険	2	12%
終身保険	3	18%
医療・がん保険	10	59%
学資保険	0	0%
介護保障保険	1	6%
その他	1	6%

●ラインナップご紹介用冊子（営業店の窓口にご用意しております。）

投資信託 ファンドセレクション



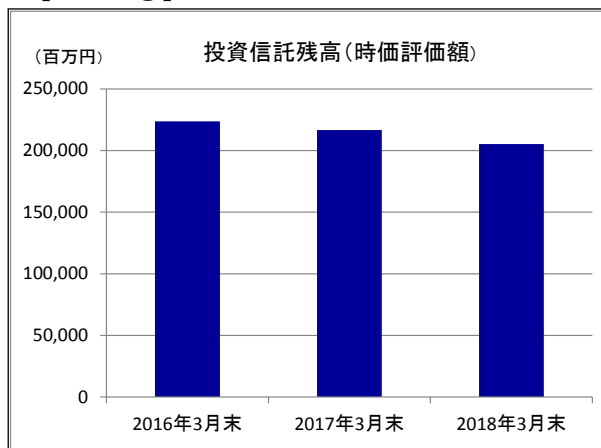
保険ラインナップ



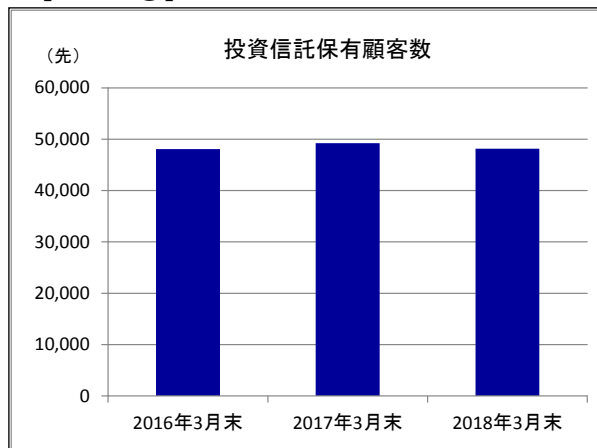
※各計数については、合併前の2018年3月末時点における旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

- ・金融マーケット環境の相場上昇を背景に、投資信託の利益確定をされるお客さまが増えたことなどを要因として、きらぼし銀行でお預りしている投資信託の残高（時価評価額）は減少傾向にあります。一方で保有顧客数については、概ね横ばいで推移しています。

【KPI①】

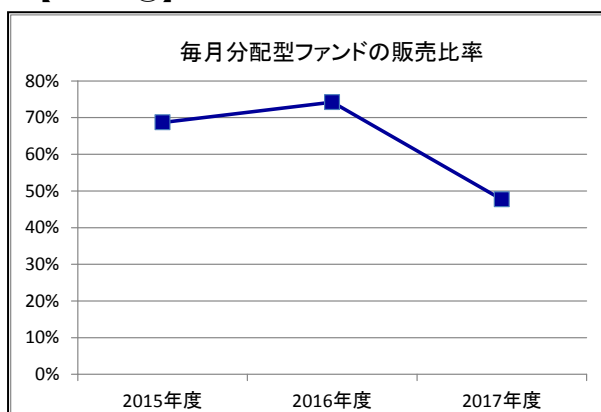


【KPI②】

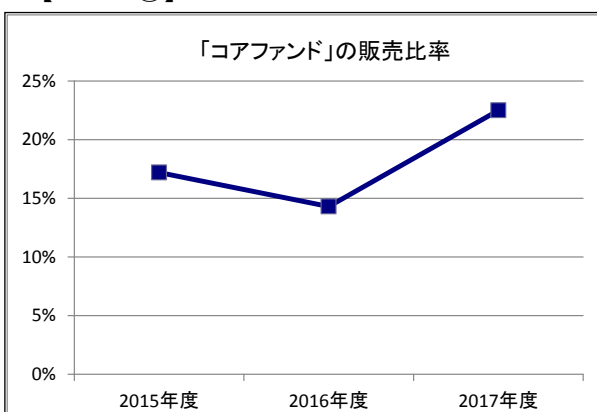


- ・お客さまニーズに相応しい金融商品・サービスの提案を行った結果、投資信託販売額に占める毎月分配型の販売比率は低下し、コアファンドの販売比率が上昇しました。

【KPI③】



【KPI④】

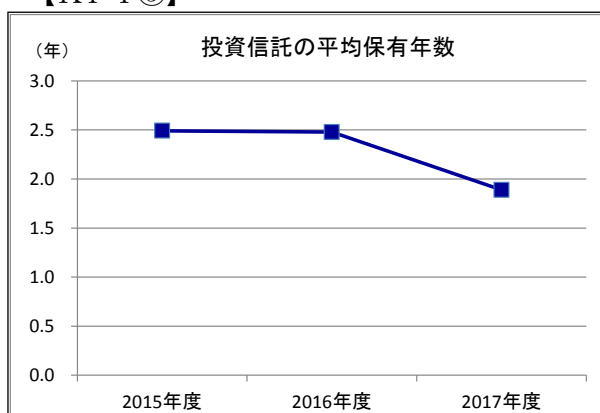


「コアファンド」とは、長期・分散・積立投資に適うバランス型ファンド、比較的値動きの少ない安定的な資産へ投資するファンド等を指します。

※各計数については、合併前の2018年3月末時点における旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

- ・投資信託の平均保有年数は、相場上昇による利益確定の増加等を背景として短期化しましたが、足元のコアファンド販売比率の上昇を鑑みますと、今後の平均保有年数は長期化する見通しです。

【KPI⑤】

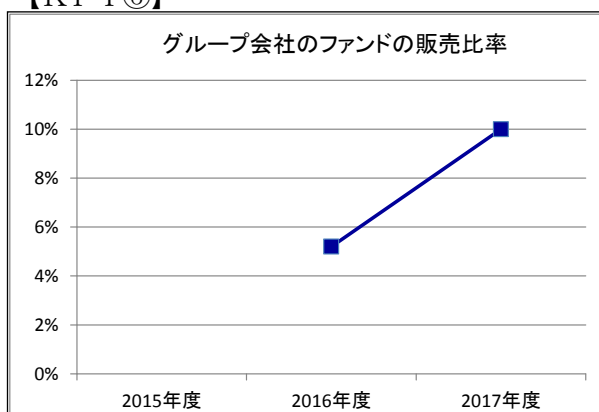


平均保有年数は、投資信託残高（過去1年間平均）を解約・償還額（過去1年間累計）で除した数値です。

2. お客さまと利益が対立する可能性のある取引の適切な管理について

- ・グループ会社（スカイオーシャン・アセットマネジメント株）の商品を2016年度から販売したため、グループ会社商品の販売比率は上昇しました。グループ会社の商品採用時には、外部評価機関の評価を参考として適切な商品選定を行っています。

【KPI⑥】



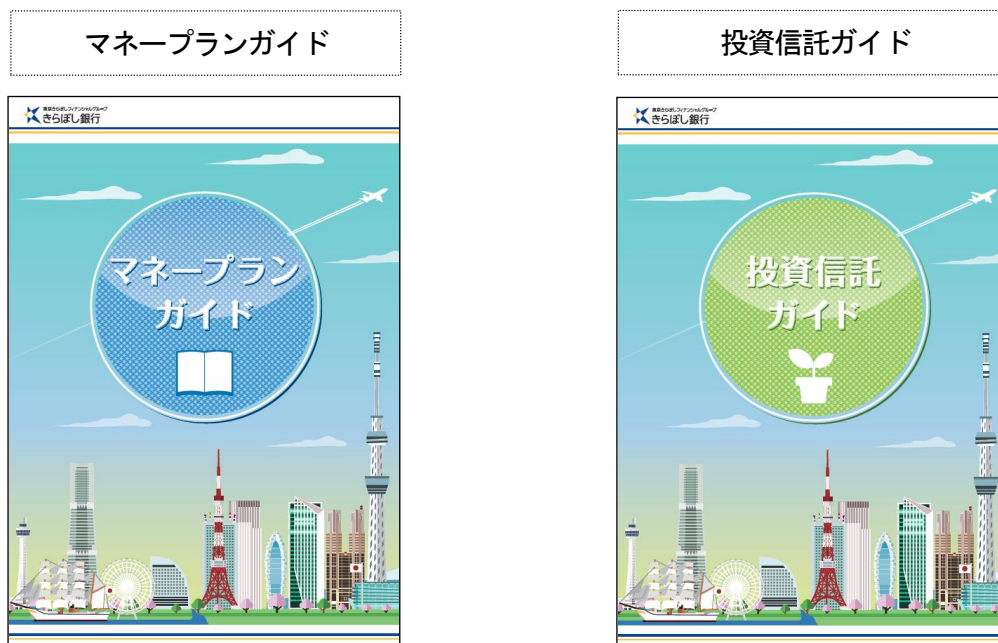
2015年度は、グループ会社に委託会社はございませんでした。

※各計数については、合併前の2018年3月末時点における旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

3. お客様にわかりやすい情報提供

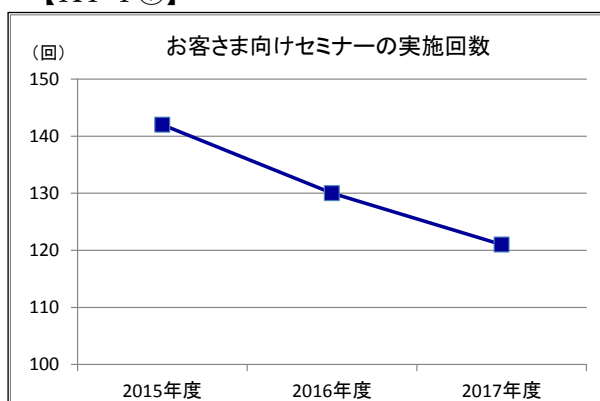
- ・お客様へわかりやすく情報を提供することを目的として、情報提供用冊子「マネープランガイド」「投資信託ガイド」等を作成・使用して、丁寧な説明を行っています。

●情報提供用冊子（営業店の窓口にご用意しております。）



- ・お客様への適切な情報提供を目的に、資産運用関連「お客様セミナー」を随時開催しております。旧3行が合併し営業店事務対応がひと段落しましたので、2018年度は「お客様セミナー」を積極的に開催していく予定です。

【KPI⑦】



※各計数については、合併前の2018年3月末時点における旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

4. お客様それぞれに相応しいご提案や販売

- ・きらぼし銀行がお客様へ販売している投資信託のコスト・リターンおよびリスク・リターンの平均値は、次のとおりです（2018年3月末時点）。

残高上位20ファンドの 平均値	コスト	2.00%	リターン	4.49%
	リスク	13.04%		

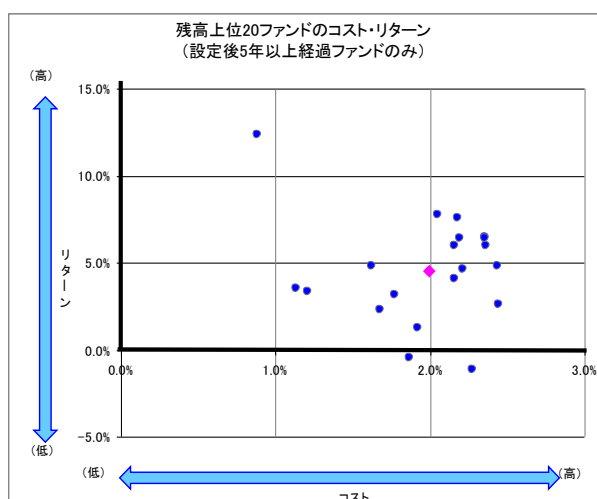
（注）投資信託の預り資産残高上位 20 銘柄（設定後 5 年以上経過したファンド）が対象です。
コスト、リスクおよびリターンの平均値はファンド毎の残高に応じた加重平均を採っています。

- ・きらぼし銀行の提供する商品・サービスについて、コストおよびリスクに見合うリターンを実現できるよう、ラインナップの充実に努めてまいります。

ア) 取扱いファンドのコスト・リターン

【KPI⑧】

共通KPI：投資信託の預り残高上位
20銘柄のコスト・リターン

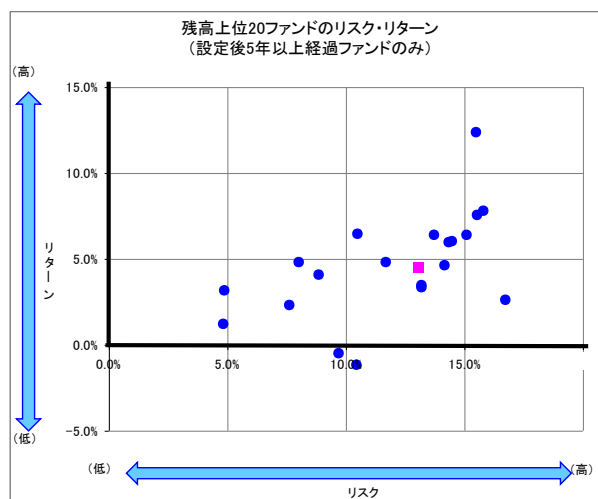


◆ 残高加重平均	コスト	リターン
	2.00%	4.49%

イ) 取扱いファンドのリスク・リターン

【KPI⑨】

共通KPI：投資信託の預り残高上位
20銘柄のリスク・リターン



■ 残高加重平均	リスク	リターン
	13.04%	4.49%

預り残高上位20ファンド	銘柄名	コスト	リスク	リターン
1	ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド(毎月決算型)	2.44%	16.74%	2.61%
2	新光US-REITオープン	2.19%	15.10%	6.40%
3	ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	1.21%	13.17%	3.37%
4	MHAM J-REITインデックスファンド(毎月決算型)	1.13%	13.20%	3.50%
5	フィデリティ・USリート・ファンドB(為替ヘッジなし)	2.05%	15.80%	7.79%
6	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	2.44%	11.70%	4.84%
7	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	2.35%	10.48%	6.48%
8	グローバル・ソブリン・オープン毎月決算型	1.67%	7.59%	2.31%
9	ダイワUS-REITオープンBコース(毎月決算型)(為替ヘッジなし)	2.18%	15.55%	7.59%
10	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	2.16%	14.45%	6.01%
11	野村インド債券ファンド	2.36%	14.32%	5.97%
12	アジア好利回りリート・ファンド	2.35%	13.74%	6.39%
13	ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(1年決算型)	1.92%	4.82%	1.24%
14	三井住友・豪ドル債ファンド	1.87%	9.68%	-0.47%
15	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2.21%	14.17%	4.61%
16	ニッセイ/パトナム・インカムオープン	2.16%	8.85%	4.10%
17	ファイン・ブレンド(資産成長型)	1.77%	4.87%	3.15%
18	ピクテ資源国ソブリン・ファンド(毎月分配型)	2.27%	10.43%	-1.14%
19	世界三資産バランスファンド(毎月分配型)	1.62%	8.01%	4.83%
20	インデックスファンド225	0.89%	15.50%	12.37%

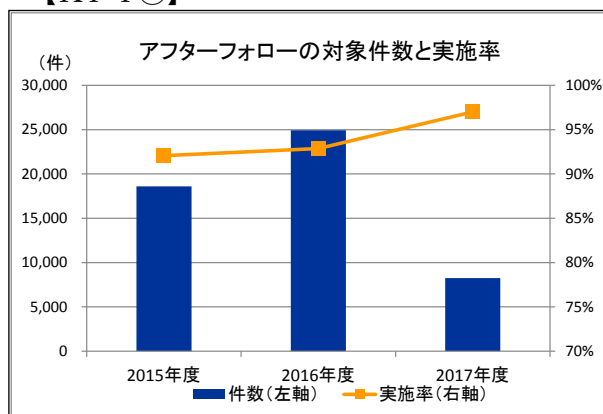
「預り残高上位 20 ファンド」は、設定後 5 年以上経過したファンドのうち、きらぼし銀行での預り残高の上位 20 銘柄を抽出しています。設定後 5 年未満のファンドは含まれておりません。
(基準日：2018年3月末)

※各計数については、合併前の 2018 年 3 月末時点における旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。

5. お客様それぞれに相応しいご提案や販売・アフターフォロー

- ・投資信託をお持ちのお客様へのアフターフォローとして、一定の基準に基づいて、定期的にお客様フォローを実施しています。
- ・2017年度は、相場上昇を背景として、フォロー対象顧客数が減少しました。今後も引き続きお客様フォローをしっかりと行ってまいります。

【KPI⑩】



《掲載指標の一覧》

	指標の内容	
KPI①	投資信託の残高	
KPI②	投資信託の顧客数	
KPI③	毎月分配型ファンドの販売比率	
KPI④	「コアファンド」の販売比率	
KPI⑤	投資信託の平均保有年数	
KPI⑥	グループ会社のファンドの販売比率	
KPI⑦	お客様向けセミナーの実施回数	
KPI⑧	残高上位20ファンドのコスト・リターン	*
KPI⑨	残高上位20ファンドのリスク・リターン	*
KPI⑩	アフターフォローの対象件数と実施率	

* … 「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」

以上

※各計数については、合併前の2018年3月末時点における旧東京都民銀行と旧八千代銀行の実績を合算し、きらぼし銀行の実績として算出しています。